

## 2021年度 独創的研究助成費 実績報告書

2022年3月29日

報告者	学科名	看護学科	職名	助教	氏名	川下 菜穂子
研究課題	思春期ピアサポート活動によって得られる大学生のがん予防の知識					
研究組織	氏名	所属・職	専門分野	役割分担		
	代表	川下 菜穂子	看護学科・助教	母性看護・助産	統括・データ収集・分析等	
研究実績の概要	分担者					
	<p>【研究の背景】日本における15～39歳のAYA期発症のがん患者は、15～19歳、20～29歳、30～39歳の順に増加し、2万人強程度と推定され、AYA期発症のがん患者は約1～3%と稀（まれ）ながんと言える。AYA期発症のがん患者の場合は、保護者が小さな異常に気付きすぐに受診する小児期発症の場合と比べて、受診までの時間が長い事が知られており、医療者自身も、AYA世代でもがんが発症することへの認識不足から、受診しても診断や治療開始までの時間がかかると言われている。</p> <p>厚生労働省はわが国の21世紀の母子保健の取組みとして、2010年に国民運動計画「健やか親子 21」を提言し、具体的な課題の一つとして「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進」が掲げられ、同世代の仲間による相談（以下、ピアサポート活動）が推奨されている。本学においてもピアサポート活動に参加する学生を募ってA県内高等学校でのピアサポート活動を実施している。先行研究において、ピアサポート活動を受ける側の研究は多数みられたが、ピアサポート活動に参加した学生に焦点を当てた研究は少ない。そこで高校生に対して妊孕性とAYA世代のがんを伝える中で、AYA世代である大学生自身ががんに対する予防や治療についての知識が得られるのではないかと考えた。</p> <p>【目的】ピアサポート活動に参加することでAYA世代のがんを知り、学生自身ががんの予防に対する知識や行動の現状を明らかにした。</p> <p>【研究方法】調査期間は2022年3月。方法は次の通りである。なお本研究は岡山県立大学倫理委員会の承認を得て実施した（受付番号：19-86（変更））。</p> <p>研究デザイン：質的探索的研究</p> <p>方法：本研究では、研究協力の同意が得られたピアサポート活動に参加した大学生11名（1グループ5-6名）を対象に、フォーカスグループインタビューを行った。具体的には以下のとおりである。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 思春期ピアサポート活動に参加する学生を募った</li> <li>2. 高校生に正しい知識が普及できるように、学部生及び大学院生自身がまずテキストや外部講師から妊孕性について講義を受け学習した</li> <li>3. ピアサポート活動を実施</li> <li>4. ピアサポート活動実施後、参加した本学の学生へ口頭で研究の詳細説明を行い、研究参加の同意を得た</li> <li>5. 研究協力の同意が得られた学生に、ピアサポート活動終了後に「インタビューガイド」を用いたグループインタビューをオンラインで実施した。承諾を得たうえで録画し逐語録を作成した</li> <li>6. 5. で得られた逐語録より、オレムのセルフケア理論(表1)をもとにコードを抽出し、コードを比較しながら語られた意味に配慮して共通するコードをまとめカテゴリー化する【結果・考察】現在、分析中である。</li> </ol>
<p>成果資料目録</p>	<p>なし</p>